

に車を取り入れる。左に林道が分かれる所にデポ。この沢は、道路と並行している沢なので、最初から期待はなし。もくもくと歩くのみである。それでも、1~2mの小滝がポツリポツリと出てくる。

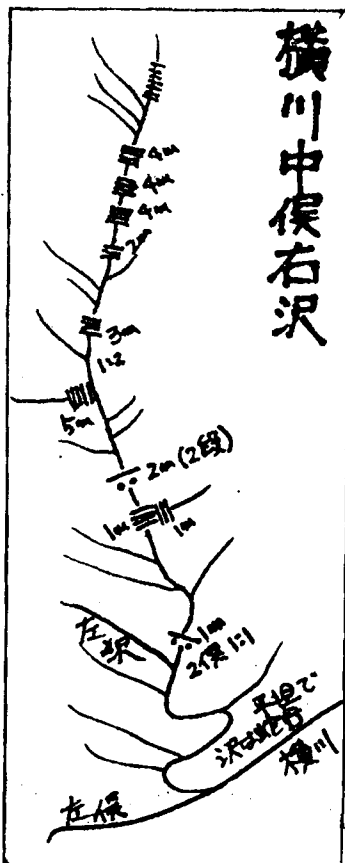
沢に入って20分、道路が二俣になる。左に行くと、大平部落への道路となる。この先すぐに治山ダムがある。治山ダムとしては、長い堰堤である。すぐ脇で、釣糸をたらしめている人がいた。

まもなく沢は二俣となる。入谷前は、菱川右俣・左俣として調査対象としていたのだが、沢にかかる橋に「ケヤキ沢橋」という橋歴板があったので、菱川右俣はケヤキ沢とよばれていることを知る。

ケヤキ沢を行ってみる。行けども行けども藪沢。なにもない。沢の流れも細くなった所で引き返し、再度菱川の遡行にかかる。

橋が多く、左にいたり右にいたり。記録が大変である。終了地点は、源頭という感はなく、スギの造林地で、丘陵という感じであった。()

【タイム】 遡行開始(13:55)→ケヤキ沢橋(14:20)→ケヤキ沢終了(14:40)→ケヤキ沢橋(14:55)→菱川終了(15:20)



横川中俣右沢

1985年10月20日

L.

13号国道から横川ぞいの道路に車を進める。しばらく行くと、民家が2~3戸ある。今は廃村となつてしまった東横川部落の名残である。そこから先に進むと、林道のゲートとなる。少し手前に車をデポして林道を歩くことにする。

林道を歩くこと30分で、横川の出合に着く。沢ぞいにこのあたりにも釣人の足跡が見られる。

右俣出合を過ぎたあたりからゴルジュとなる。捲き道があると聞いてきたのだが、みつからない。俣りにわかったことであるが、捲き道は、かなり手前から分かれて、右岸のとんでもない高い場所を通っていた。

ゴルジュを突破するには、濡れるしかない。季

節も季節であり、高播きしたところ、100m以上の大高播きととなった。目的地に着く前からきついアルバイトを強いられたものである。夏なら、おもしろいゴルジュのようである。

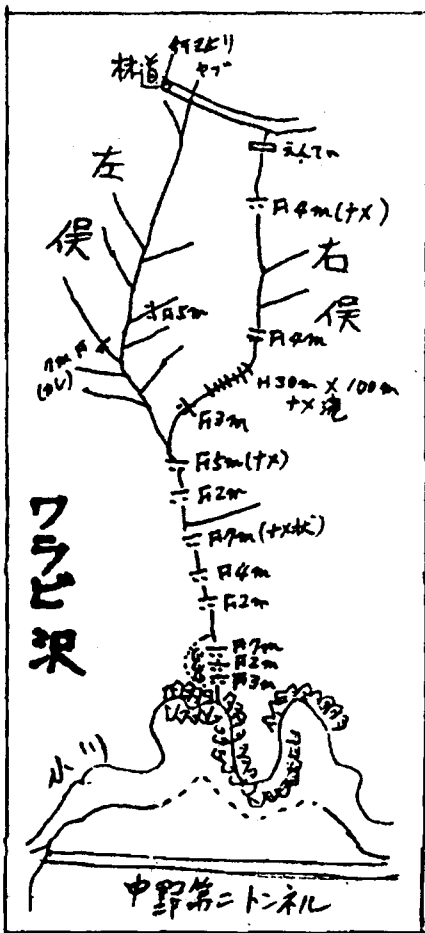
ようやく中俣出合である。苦勞してきた割には、出合はたいしたこともなく、ガッカリ。気をとりもどして先に進む。

最初は平坦地で、沢が右へ左へ大きく蛇行しており、入りこむ支沢も多い。沢幅が狭くなり、勾配がきつくなってきたあたりよりナメ床の滝がかかってくる。

源頭部へくると、勾配はゆるくなってくる。沢の中は泥で、湿地のようである。歩くと足首までズボリ、ズボリ。文殊山のちょっと手前で遡行終了とし、昼食を食べて掃路につく。

(記)

[タイム] 林道ゲート(9:00)→横川出合(9:30)→中俣右沢出合(10:50)→終了(11:40)



鳥渡屋沢

ワラビ沢左俣

1985年9月14日

L

13時福島発。中野第2トンネル入口手前を右に折れ、踏跡をたどる。しかしこの踏跡はすぐに消え、短いがいやらしい草付のトラバースの後、反対側からの道と合う。そこから沢に下降し、ワラビ沢出合へ。

出合には3m、2m、7mと続く滝がある。最初の2段は登れるが、7mの滝が登れず、右岸を高播いていた踏跡らしきものがあった。

再び沢に降りると、この先は倒木で沢がほとんど埋まっている。滝も倒木の間に出てくるもので、すべて直登できる。

右俣との出合を過ぎて沢が大きく右に曲がるところから、倒木はなくなるものの、平凡な河原歩きとなる。

ヤブがかかってきたと思ったら、地図には